

がん相談支援センターPDCA実施状況チェックリスト：がん相談支援センタープロセス指標

アウトカム			プロセス					
患者や家族および市民			がん相談支援センター		★実施状況に○×を入れる			
最終目標	準最終目標	必要な条件	必要な条件・状態		○：実施 △：検討中 ×：未実施	PRしたいこと 特に課題となっていること		
・頼りにできる人・相談の場がある（寄り添う） ・困っている患者・家族が減る ・患者中心の（その人なりの）意思決定が可能になる	相談の場があると感じる人が増える 相談支援センターの役割を知っている人が増える ・患者が孤立しない ・患者同士の交流が可能になる	その人にとってアクセスしやすい相談場所・相談の入り口がある 多様な相談先がある 複数の相談場所がある 適切な相談窓口につながる人が増える 院内・外へセンターの周知が行われる ・医療従事者（院内・外）が相談支援センターの役割を知っている ・紹介元から紹介先へうまくつながれる（うまく連携がとれている） ・患者サロンの運営や協力をする ・患者会活動の支援をする	1-1-1	○			院内・院外での相談対応件数	
			1-1-2	○	外来・病室・市民公			
			1-1-3	○	5患者会、 メディカルカ フェ、患者代 表会			
			1-1-4	○	ちらし、相談 員名刺	担当医から紹介された相談件数		
			1-1-5	○	退院前カン ファレンス			
			1-1-6	○	連携室、緩 和ケアチーム			
			1-1-7	○	医局会、 リーダー会			
			1-1-8	○	外来カンファ レンス、管理			
			1-1-9	○	院外、院内 医療者から			
			1-1-10	○				
			1-1-11	○				
			1-1-12	○				
	・患者が自分でいい生活ができるよう問題の解決ができる ・患者や困りごとの原因が減る		1-1-13	○	情報サロン 冊子作成	患者サロンの開催数		
			1-1-14	○	情報サロン 冊子作成	患者サロンの開催数		
			1-1-15	○	毎回メティカルカ フェ開催	患者サロンの開催数		
			1-1-16	○		患者サロンの開催数		
			1-1-17	○		患者サロンの開催数		
			1-1-18	○	患者会代 表者会議の がんサバイ バーネット			
			1-1-19	○				
	・患者が自分でいい生活ができるよう問題の解決ができる ・患者や困りごとの原因が減る	（がん罹患後の）生活の見通しが立つ 問題の解決法・対処法が増える 問題や困りごとの原因が減る	1-2-1	○	2017 年度継続	相談員の研修受講者数		
			1-2-2	○	2017 年度指導	相談員の研修受講者数		
			1-2-3	○	免疫チェック ポイント阻	相談員の研修受講者数		
			1-2-4	○	院内○ / 県内×	相談員の研修受講者数		
			1-2-5			相談員の研修受講数		
			1-2-6	○	相談員間で の随時カン ファレンス			
			1-2-7	○	集学的がん 診療セン			
	・患者中心の（その人なりの）意思決定が可能になる ・納得して治療を選択できる 意志決定に必要な情報が得られる 医療者とのコミュニケーションがうまくいく ・公平・中立な相談の場が確保される	相談対応の質が担保されている ・科学的根拠に基づく信頼できる情報が提供できる ・理解を促進する説明ができる ・医師や看護師等へ理解を促進するような橋渡しができる 医療連携が円滑に行われている だれでも相談できることを明示し、保障している 匿名で相談対応できることを明示し、保障している 個人の情報は保護され、適切に扱われる体制がある	再掲	○	2017 年度継続	相談員の研修受講者数		
			再掲	○	2017 年度指導	相談員の研修受講者数		
			再掲	○	免疫チェック ポイント阻	相談員の研修受講者数		
			再掲	○	院内○ / 県内×	相談員の研修受講者数		
			再掲			相談員の研修受講者数		
			1-3-1	○	国立がんセ ンター研修 資料に基づ	相談員の研修受講者数		
			1-3-2	○		相談員の研修受講者数		
			1-3-3	○	相談員3名 で実施	相談員の研修受講者数		
			1-3-4	○	緩和ケア チームラウン ドリストで対 応			
			1-3-5	○	退院支援 室、メディ			
			1-3-6	○		匿名の相談件数		
			1-3-7	○		匿名の相談件数		
			1-3-8	○	院内個人 情報規則の			
	・(患者・家族・市民から見て)適切に対応できる医療者が増え る	十分な説明、必要な情報を得られる 治療や治療以外の心配や不安について表出しやすくなる	1-4-1	○		院内医療者から紹介された相談件数		
			1-4-2	○		院内医療者から紹介された相談件数		
			1-4-3	○	健診セン ターとの連携			
			1-4-4	○	院内○			

<p>(がんになって も) 安心して暮 らせる</p> <p>・社会に、がんに 対する対応力が 醸成される</p>	<p>社会の支えが感じられる</p> <p>広報活動が行われている</p>	<p>がん対策や治療に関わる新しい情報の発信ができる</p>	2-1	○		相談支援センターに接触した住民の数、割合
			2-2	○	がん相談員 ワーキングで	相談支援センターに接触した住民の数、割
			2-3	○	福井新聞へ の掲載	相談支援センターに接触した住民の数、割
			2-4	○	相談員3 名参加	
	<p>情報啓発の場が確保される</p> <p>がん対策や治療に関わる新しい情報の発信ができる</p>	<p>がん対策や治療に関わる新しい情報の発信ができる</p>	2-5	○		患者や市民向けの講演会の数（院内・出前の方）
			2-6	○		患者や市民向けの講演会の数（院内・出前の方）
			2-7	○		患者や市民向けの講演会の数（院内・出前の方）
			2-8	○	7月・甲子 公開講座 9月：がん 教育教室 10月・健	患者や市民向けの講演会の数（院内・出
			2-9	○	化学療法 講演会、放 射線療法	
			2-10	○	別紙 地域へのPR 方法 取り	院外の場での講演会の数
			2-11	○	別紙	院外の場での講演会の数
			2-12	○	がん相談員 ワーキングで の取り組み	院外の場での講演会の数
			2-13	○	がん相談員 ワーキングで の取り組み	